

山ぼうし

第45号 平成20年12月22日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



1 2 の 徳 目

先月、岩手県校長協会60周年記念式典があり、前教育委員長の安藤 厚先生の講演を聴く機会があった。テーマは「温故知新」で、教育勅語に関する内容である。

教育勅語は、戦前の日本の教育の根幹をなす勅語（天皇のことば）であるが、戦後は、排除、失効となった。その否定的評価は、教育の根本に天皇中心の国体思想を据えたことや、過剰な神聖化（式典などで奉読されたが、読み間違うと校長の進退にも及んだ）、軍事教育や軍国主義と同列のものとして捉えられたことなどによるものである。

しかし、現在の道義の退廃、秩序の紊乱、家庭の崩壊を背景に、「日本の伝統的徳観が込められており、一種の模範となるものがあるのではないか」と肯定的に考える意見もある。教育勅語を学び、日本人の美徳を確認することにより、多くの日本人から失われてしまった道徳心。かつて世界から仰がれていた日本人の道徳心を、家庭を含めた教育現場で回復させようというのである。

ところが、「教育勅語」という四字熟語を見て、原文も読まず、意味するところを知らず、条件反射的に「軍国主義」というイメージに直結するのが現実である。

ここで、教育勅語に謳われている「12の徳目」を並べてみる。

- ・ 1 親に孝養を尽くしましょう（孝行）
- ・ 2 兄弟・姉妹は仲良くしましょう（友愛）
- ・ 3 夫婦はいつも仲睦まじくしましょう（夫婦の和）
- ・ 4 友達はお互いに信じ合って付き合いましょう（朋友の信）

校長 兼 平 栄 補

- ・ 5 自分の言動を慎みましょう（謙遜）
- ・ 6 広く全ての人に愛の手をさしのべましょう（博愛）
- ・ 7 勉学に励み職業を身に付けましょう（修業習学）
- ・ 8 知識を養い才能を伸ばしましょう（知能啓発）
- ・ 9 人格の向上につとめましょう（徳器成就）
- ・ 10 広く世の人々や社会の為になる仕事に励みましょう（公益世務）
- ・ 11 法律や規則を守り社会の秩序に従いましょう（遵法）
- ・ 12 正しい勇気をもって国のために真心を尽くしましょう（義勇）

日本人として、というより人間として当たり前の事ばかりである。

教育勅語では、12の徳目に続けて、「一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ」とあり、これが兵役の義務と一組にされているのではないかと批判がある。しかし、起案者の井上毅は、特に兵役とは結びつけていたわけではなかったとされている。

天皇の神格化に結びつけず、思想や宗教の自由を侵さないのであれば、『日本人としての根本倫理』を表したものとして教育勅語内の『12の徳目』を捉えてもいいのではないかと思う。

1月行事予定

1月 13日（火）	授業始め式，休み明け試験，安全の日
14日（水）	身長・体重測定
15日（木）	頭髪・服装検査
20日（火）	情報技術検定
23日（金）	実用英語技能検定
30日（金）	3年生定期試験（～2月4日まで）



修学旅行

12月9日(火)、修学旅行第1日目、京都は冷たい雨だった。夕方京都駅に到着すると我々はその足で清水寺に向かった。京都は、つい最近まで東福寺や嵐山などを中心に紅葉目当ての観光客で混雑していたそうである。雨の清水寺は、紅葉も終わり観光客が一段落したとはいえ、依然多くの旅行者で賑わいを見せており、我々はその合間を縫って急ぎ足で見学やクラス写真の撮影を済ませ、清水寺をあとにした。

12月10日(水)、修学旅行第2日目、濃霧に覆われた高速を抜け、奈良へと向かった。天候が心配されたが、奈良へ着く頃には霧が晴れ、快晴であった。生徒たちは薬師寺で僧侶の話を聴き、法隆寺で釈迦三尊像や百済観音像を見学し、飛鳥・白鳳の文化に触れた後、昼食を挟んで奈良公園へ向かった。奈良公園では各クラス毎に「名物ガイド」が付き、生徒たちは、平城の都奈良に関する深い知識とユーモアたっぷりの語り口に耳を傾けながら、2時間ほど公園内の仏閣寺院を見学した。東大寺南大門や金剛力士像の迫力に圧倒されただじっと見入る者、東大寺大仏の大きさに感激し歓声をあげる者、仲間と一緒に鹿と戯れる者など、生徒は思い思いに奈良を満喫したようであった。



12月11日(木)、修学旅行第3日目、京都市内で自主研修が行われた。自主研修は事前に各クラス内で4~6名の班を作り、仲間と意見を交わし協力しながらプランを立てることから始まった。見学地の1番人気は金閣寺で、続いて二条城や三十三間堂、運動部の生徒たちは、蹴鞠で有名な白峯神宮などを見学地に入れ、各班毎に特色あるプランを作成した。朝8時30分に宿を発った各班の生徒たちは、目的地を周り、京都の歴史・文化に触れた後、家族や親友への土産を両手一杯に抱えて、笑顔で無事に宿に到着した。



12月12日(金)、修学旅行第4日目、おそらく生徒たちが旅行中最も楽しみにしていたはずであるユニバーサルスタジオジャパンへと向かった。大阪の天候は快晴。またこの日は、この時期ユニバーサルスタジオに吹きつける冷たい浜風もなく、秋を思わせる暖かな陽気の中、生徒たちは仲間と一緒に歓声(絶叫?)をあげながら、目一杯アトラクションや買い物を楽しんでいた。夕方4時半に集合した生徒たちの顔を見ると多少疲れを感じたが、誰もが興奮冷めやらぬ様子で嬉しそうであり、彼らにとって忘れられない貴重な思い出ができたことを実感した。

12月13日(土)、修学旅行最終日、朝大阪の宿を発ち、神戸の北野異人館に向かった。生徒は各自さまざまな洋館を見学し、丘の上から晴れ渡った神戸の港を心ゆくまで眺めた。異人館を出発し、三宮・南京町付近を通過し、ポートタワーの麓のレストランで昼食をとった。その後最後の見学地「人と防災未来センター」へと向かった。この施設は阪神大震災を機に建設されたビルで、生徒は実際に被災された方から地震のあった当日の様子を聴き、さらに大きなスクリーンに映し出される映像と音響等で地震を疑似体験し、改めて震災の恐ろしさとその被害の甚大さを痛感したようであった。



12月9日(火)朝に宮古を出発した一行は、途中体調を崩した生徒もいたが、生徒113名無事に12月13日(土)午後9時30分頃に宮古に到着した。京都・大阪・奈良・神戸と関西圏の4つの主要都市を巡る4泊5日の修学旅行は、生徒たちにとって忘れがたく意義深いものとなったに違いない。また、この旅行を通じてさらに仲間との絆を深めたはずである。彼らがいつの日にか、再び京の地を訪れた時、大人になった彼らにはどう映るのだろうか。社会に出るまであと僅かである。今後彼らが限られた時間のなかで、1つでも多くの事を学び、さらにたくましく大きく成長することを心から願う。



今回の修学旅行に際し、保護者の皆様をはじめ多くの方々から多大なるご支援・ご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。